

施設長	園長	所長	記録者
			

社会福祉法人駿河会 地域密着型サービス運営推進会議【藁科】

日時 令和3年 11月11日 13:30~14:00

会場 ラポーレ駿河相談室

出席者

施設長	玉田直文	地域代表	森谷正義	こだま	小林由季
園長	杉山結子	地域代表	森朝世	嘉響	加藤真子
所長	村田雄二	地域包括	河村美保		

事務局

本日はお時間をいただきましてありがとうございます。

では、早速ですが駿河会の地域密着型サービス運営推進会議を始めたいと思います。

はじめの挨拶

玉田施設長

新型コロナウイルスについては変異株等の影響も少なく、静岡においては終息しつつありますが、これからもマスクの着用等を継続して感染対策をしっかりとって営業を継続していきたいと考えています。本日も地域の皆さまから忌憚のないご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願ひします。

事務局

本日の議題は令和3年度上半期の実績報告と、地域の取組について報告させていただきます。まず初めに、昨今のコロナウイルスに対する通所事業所の対応と4月に行われた介護報酬の改定についてご報告させていただきます。

●新型コロナウイルス関連の報告

- ・職員のワクチン接種について
- ・業務継続計画（BCP）の策定

●令和3年4月より、介護報酬の改定

- ・災害への地域と連携した対応の強化
- ・認知症介護基礎研修受講の義務付け
- ・科学的介護の推進
- ・災害に対する業務継続計画（BCP）の策定

●添付資料

※①介護報酬改定変更点 ②科学的介護について ③こだま・嘉響報告原稿

以上、通所事業所共通の近状についてご報告させていただきました。

それでは、ここからは こだま、嘉響の順で、各担当者から報告させていただきます。

こだま（小林） 添付書類参照

嘉響（加藤） 添付書類参照

- 藁科包括 地域の実情としては、コロナの影響ですっと中止となっていた地域のS型デイサービスも今月から活動を再開していくとの話が聞かれています。開催時間が1時間程度だったりとまだ制限がありますが、少しずつ活動が再開されてきています。
- 事務局 以上、こだま、嘉響における令和3年度上半期実績の報告と地域の実情についてでした。各担当者は、もっとお話ししたい事があると思います。
森谷さん、森さん、「こんなことを聞いてみたい」というような事はありますか？
- 森谷委員 報告を聞いていて、デイサービスでの利用者の減少が気になりました。
実績の数値自体は、何か動いた後に結果としてついてくるものだと思いますので、それよりも顧客の満足度を知る事、地域に対してしっかりとマーケティングをしていくことが必要なのではないかと思います。
- 事務局 貴重なご意見ありがとうございます。駿河会では各事業所で満足度調査を行っておりますが、利用者が減少してきている実情に対しては、意見の汲み取りが足りていないのだと思います。「コレができるからデイに行く」と思っていたら、需要調査を行い、必要な地域に対して情報発信を行うことを検討していきたいと思っています。
- 森谷委員 そうした取り組みがマニュアル化されてしっかりと法人本部にフィードバックできる体制を整えていったほうが良いと思います。
- 森委員 私の住む山間地は人口が減っていて、コロナのことがあってから人が集まる機会がなくなっています。農協も大きな所に統合されることになったりしてより一層生活に対する不安を地域住民は持っています。特に車の運転ができなくなる年代では、買い物等が困ることがあるので、駿河会さんも協力している買い物ツアーや、デイサービスで迎えに来てくれるのはとても助かります。
- 村田所長 最近では病院に入院しても長期間は置いてもらえないので、医療的処置が必要な状態で山間地に戻ってくるケースが見られています。ガンなどの終末期のケースもあり、訪問系の医師や看護師の資源に協力してもらいながらなんとか生活をつないでいる現状があります。今後山間地の人口が減って、資源が減ってきたときに向けて、何か皆で協力して助け合う仕組みを考えていったほうが良いと考えています。
- おわりの挨拶
- 杉山園長 入所施設においても、コロナの影響で面会を中止しており、ご家族とコミュニケーションが少なくなっています。満足同調査を行って紙面でご意見を伺っていますが、本当の気持ちはどうなのか等を知るためには直接ご意見をいただく以上のことではないと思います。今回のように、地域の皆様から頂いたご意見を参考に、これからも健全な運営に努めていきたいと思っています。
- 事務局 皆さま、様々なご意見ありがとうございました。これで会議を終了とさせていただきます。次回開催時は準備ができ次第ご連絡差し上げるように致します。
本日はありがとうございました。

い い 日、い い 日。
11月11日は
介護の回 

みんなで介護について考えてみませんか？

毎日あったか介護
ありがとう



災害への地域と連携した対応の強化

災害への対応においては、地域との連携が不可欠であることを踏まえ、非常災害対策が求められる介護サービス事業者を対象に、訓練の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならない。

日頃から地域住民との密接な連携体制を確保するなど、訓練の実施に協力を得られる体制づくりに努めることが必要である。

認知症介護基礎研修の受講の義務づけ

介護サービス事業者に、介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者について、認知症介護基礎研修を受講させるために必要な措置を講じることを義務づける。

CHASE・VISIT 情報の収集・活用を評価する加算の創設

入所者・利用者ごとの、ADL値、栄養状態、口腔機能、認知症の状況その他の入所者の心身の状況等の基本的な情報を、厚生労働省に提出する。

必要に応じてサービス計画を見直すなど、サービスの提供に当たって、上記の情報その他サービスを適切かつ有効に提供するために必要な情報を活用する。

業務継続計画（BCP）の策定

業務継続計画の策定、研修、訓練の実施は、感染症や災害が発生した場合には、従業員が連携し取り組むことが求められることから、研修、訓練の実施は、全ての従業員が参加できるようにすることが望ましい。

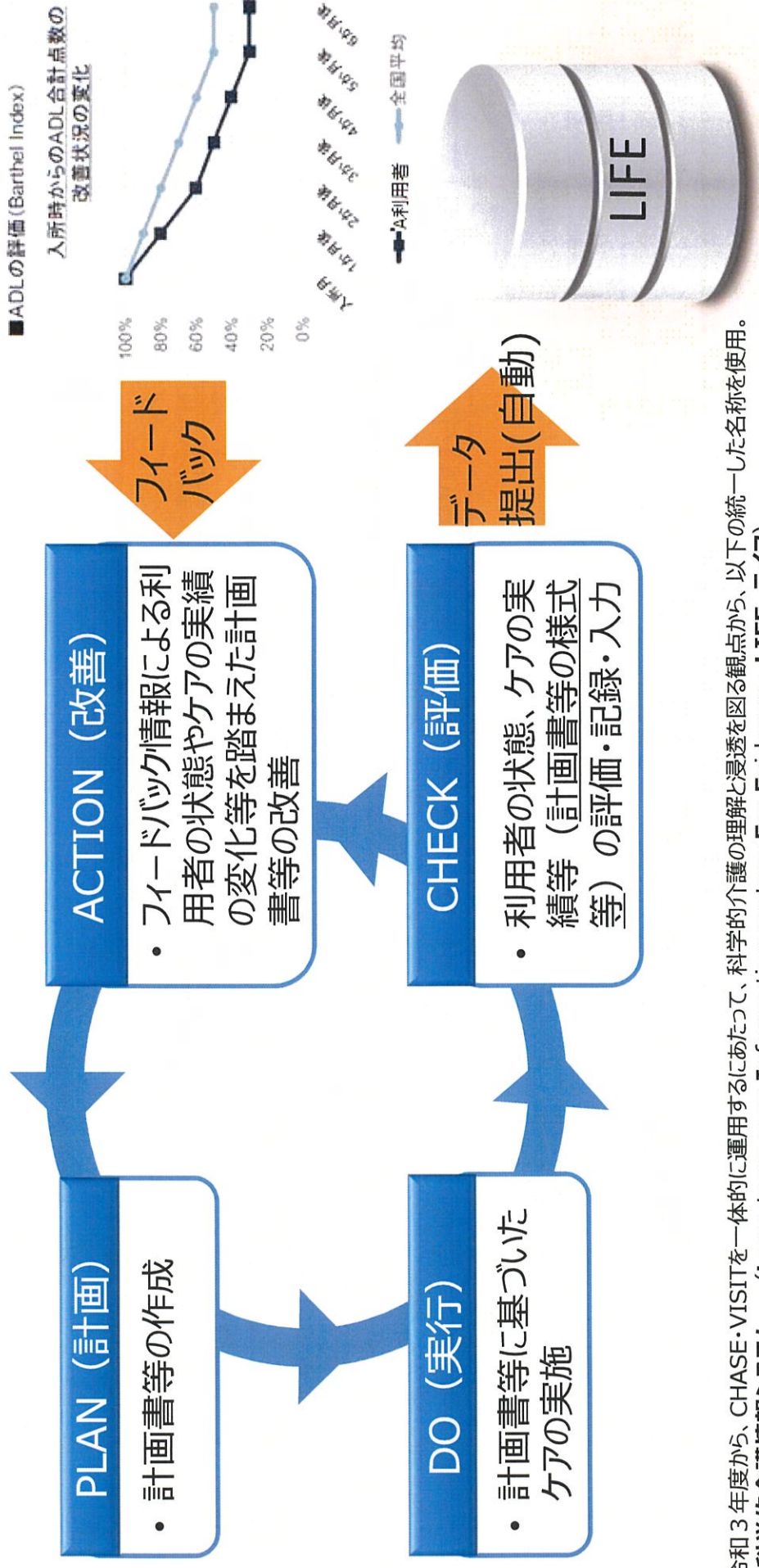
業務継続計画には、以下の項目等を記載する。

感染症に係る業務継続計画

災害に係る業務継続計画

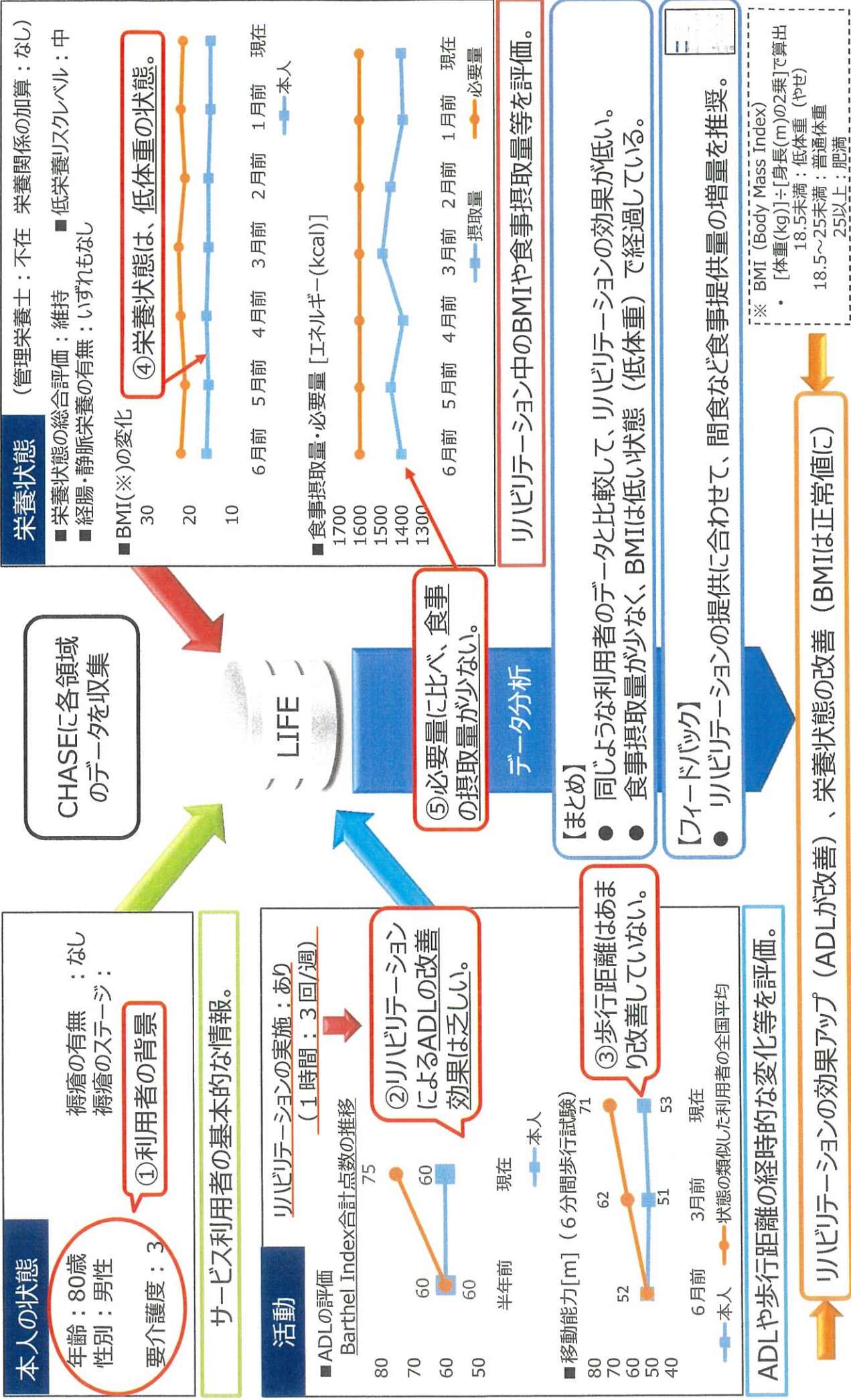
LIFE(VISIT・CHASE)による科学的介護の推進(イメージ)

- 計画書の作成等を要件とするプロセス加算において実施するPDCAサイクルの中で、
 - ・ これまでの取組み等の過程で計画書等を作成し、ケアを実施するとともに、
 - ・ その計画書等の内容をデータ連携により大きな負荷なくデータを送信し、
 - ・ 同時にフィードバックを受けることにより、利用者の状態やケアの実績の変化等を踏まえた計画書の改善等を行うことで、
- データに基づくさらなるPDCAサイクルを推進し、ケアの質の向上につなげる。



※ 令和3年度から、CHASE・VISITを一体的に運用するにあたって、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、以下の統一した名称を使用。
科学的介護情報システム (Long-term care Information system For Evidence : LIFE ライフ)

例①：リハビリテーションの提供に応じた、最適な栄養の提供について評価（利用者単位）

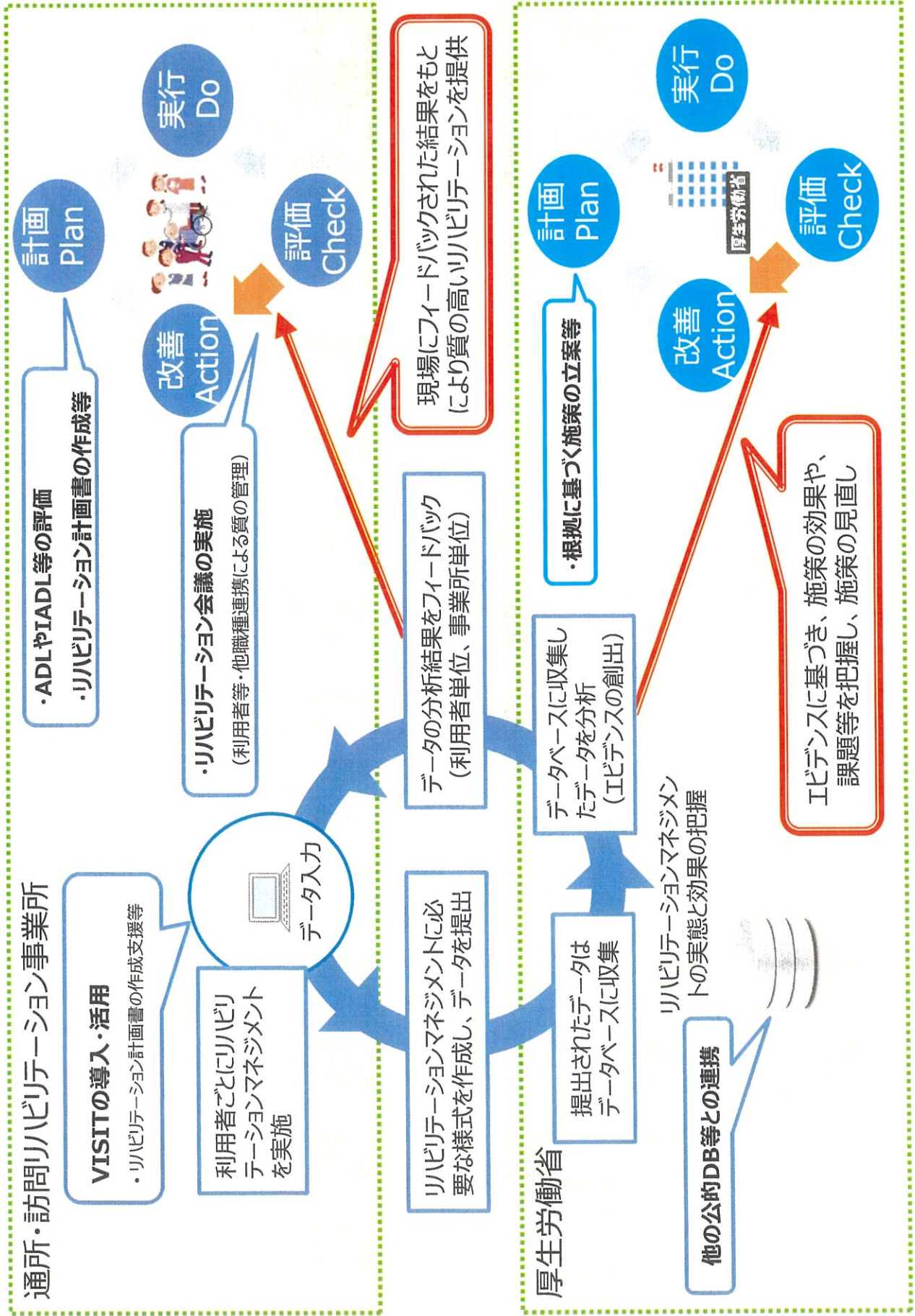


※ 令和3年度から、CHASE・VISITを一体的に運用するにあたって、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、以下の統一した名称を使用。
科学的介護情報システム（Long-term care Information system For Evidence：LIFE ライフ）

VISITを用いたPDCAサイクルの好循環のイメージ

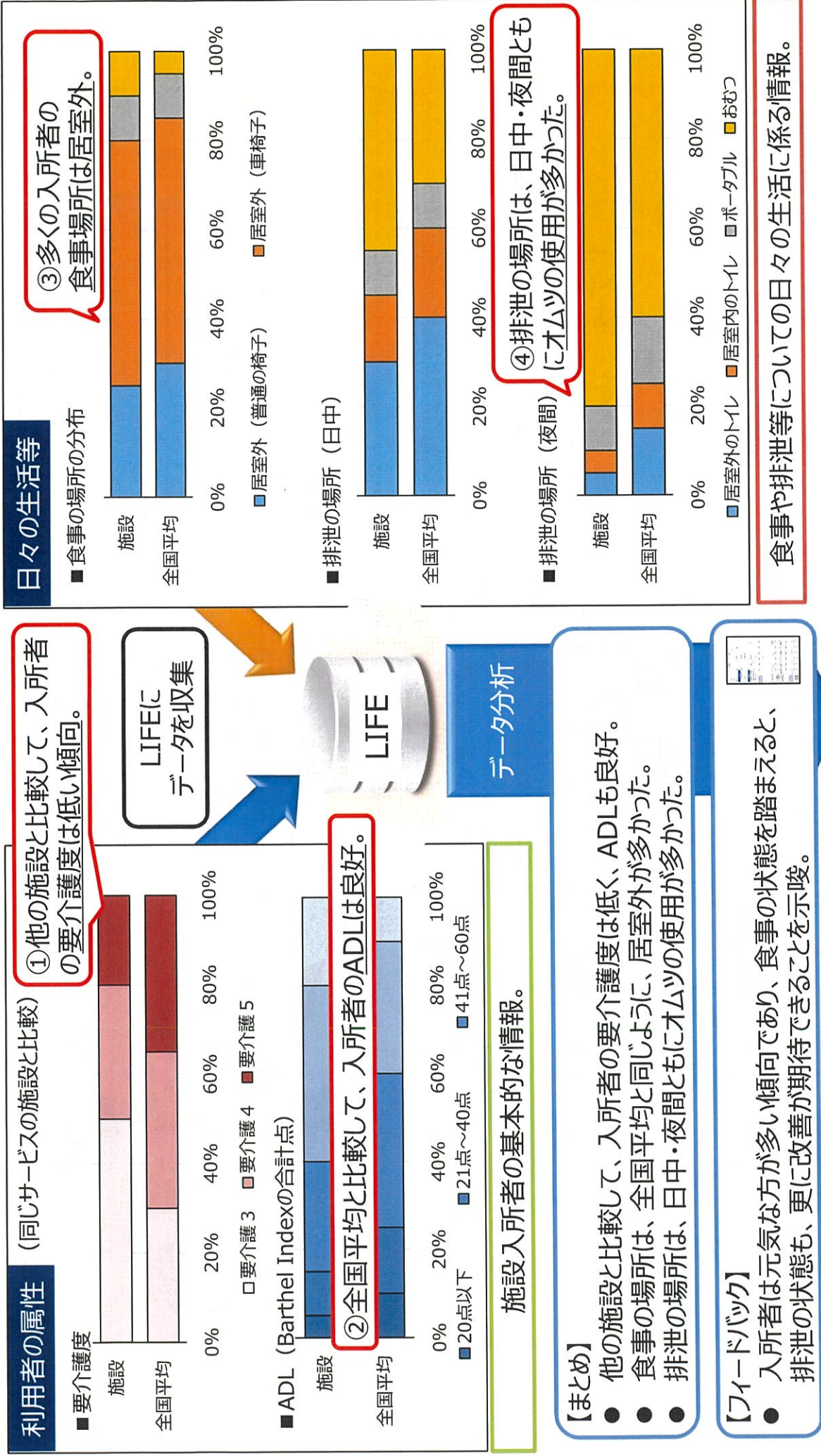
第178
(R2.6.25)

資料
1



個別化された自立支援・科学的介護の推進例（イメージ）

例②：施設入所者の排せつ状態の改善に係る取組の評価（事業所単位）



※ 令和3年度から、CHASE・VISITを一体的に運用するにあたって、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、以下の統一した名称を使用。
科学的介護情報システム (Long-term care Information system For Evidence : LIFE ライフ)

令和3年 第2回運営推進会議 嘉響上半期報告

開催日：令和3年11月11日（木） 13：30～

①上半期報告

- ・利用者は事業対象者から要介護3
- ・新規利用者は要支援認定4名、要介護認定6名、終結は6名。終結のケースとしては、長年利用してくださった方が亡くなられたケースや状態変化により嘉響の利用が難しくなり、他施設へ移行するケースがあった。

評価：前年度の上半期に比べ新規利用者が少なかった原因として、新型コロナウイルスの蔓延で、今までデイでの様子を見に来ていたケアマネジャーが来所されなくなり、様子が伝わりにくくなった。直接的なケアマネジャーとのコミュニケーション不足になり、それが新規利用者の紹介へとつながらなかったと考える。今後新規利用者獲得に向けて、今までとは違うやり方でケアマネジャーとのコミュニケーションを取っていく必要があり、その方法は早急に考える必要がある。

②令和3年度介護報酬改定

- ・科学的介護推進体制加算…厚生労働省へ利用者の基本情報を提出してフィードバック受けて、ケアの質を向上に取り組むサービスが始まった。

③活動状況

今年度の嘉響は「『今日来て良かった』と思える嘉響にしよう」という目標を掲げ、午後の活動時間に着目し、利用者様の言葉にヒントを得て、引き出しを広げ、職員と一緒に活動に取り組み、一緒に評価をしている。一緒に活動を行うことで、同じ気持ちを共有し、「やれた」「できた」という達成感から、自宅での話題の種に上がるようになってきた。

住んでいる場所が違い、今まで関わりがなかった地域の方と嘉響で出会い、雑巾作りを通じて、できることや得意なことを活かし、職員とともに活動することが定着してきた。利用者様の言葉で、「私はもともと同じ地域に住む友達が嘉響へ来ていたから、私も通ってみたくらいの気持ちだったけど、最近は週1回の嘉響の日が楽しみになってきた。この歳になって友達ができると思わなかった」と仰っていた。同じ気持ちを共有する中での活動は、より意欲が向上し、「小さな雑巾をたくさん作ってみようか」と使用する子供の姿を考えることまで発展している。農家としてやってきた利用者様が高齢となり、自宅での役割が少なくなる中、嘉響で新たな仕事・役割を見つけ、生きがいにつながっているのではと感じる。

地域貢献の一環として今年で4年目に突入した近隣施設への雑巾寄贈は、新型コロナが流行り始めた昨年からの訪問ができなくなり、一時期雑巾作り活動の停滞や利用者様のやる気が低迷し、今年度はコロナ禍でもできる貢献について考えてきた。感染者の動向を見ながら、感染対策をした上で上半期は服織こども園に手縫い雑巾を100枚寄贈することができた。今後も地域の一員としてコロナ禍でも地域のために利用者と一緒に何ができるのか探していきたい。

地域密着推進会議（こだま）

2021年11月11日

★令和3年度活動の活動について

今年度は、こだまを利用して一人一人の目的ややりたい事に着目をして、必要な援助の見直しを行っています。目的は、のんびり過ごしたい方や、下肢筋力維持の為に体操を頑張りたいなど様々です。個々の目的に合わせて計画を立て、職員でサポートを行い、目的達成を目指しています。

また、昨年から新型コロナウイルスの流行等、想定していなかった災害などが起こっています。災害が起きた時にもスムーズな営業ができるように災害マニュアルの見直しも行っていきます。

★令和3年度上半期実績

	令和3年度上半期	令和2年度上半期
1日平均利用者数	6.37名 (9月時点5.36名)	6.57名
新規利用者	8名	7名
終結者	10名	6名

・利用者減少

1日平均利用者数は、前年度上半期6.57名に対し、今年度は6.37名とあまり変わらない数字となっています。しかし、月ごとに見ていくと、7月に定員12名の半数になり、その後も減少し、9月時点では5.36名にかなり低迷しています。

利用減少の要因は、新規利用者数は前年度と変わらないのですが、終結者が増加しています。長期入所される方が前年度は1名でしたが、今年度は4名と、長期入所される方の増加傾向がみられています。

- 服織地区からの利用、外部居宅からの紹介が増加

新規利用者を見ると、服織地区からの利用者が前年度に比べ、2割程増加し、4割程を占めるようになっていました。外部からの紹介の方も同様に、増加しています。

外部居宅からの紹介では、「少人数のところを探している。」「他事業所では断られた。」等の理由に、こだまを紹介されることがありましたので、今後は、少人数で手厚い介護を強みとして、服織地区への営業にも力を入れていきたいと思えます。

★地域向けの活動

- 清沢まつり、大川収穫祭

前年度と同様に、コロナ禍の為、中止になりましたので、作品等をフロア内に展示し、利用者の意欲に繋げています。

- 地域清掃

前年度に行ってきた地域清掃は、利用者の状態の悪化などによりできないこともありましたが、少人数で行うなど利用者に合わせて実施しています。